

表 平成28年度(平成29年産)麦類作況試験生育ステージ

品種	幼穂形成始期 (幼穂長1mm)		茎立期 (主稈長2cm)		減数分裂期 (幼穂長3cm)		出穂期 (出穂40～50%)		予想される成熟期		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年の予測期	平年	
	(月/日)	(月/日)	(月/日)	(月/日)	(月/日)	(月/日)	(月/日)	(月/日)	(月/日)	(月/日)	
六条大麦	シュンライ	1/26	2/8	4/2	4/3	4/18	4/22	4/26	4/30	6/5 ~ 6/10	6/11
	ミノリムギ	2/1	2/22	4/3	4/6	4/19	4/25	4/28	5/3	6/7 ~ 6/12	6/13
小麦	あおぼの恋	2/6	2/11	3/26	3/29	4/20	4/24	5/3	5/5	6/17 ~ 6/22	6/24
	シラネコムギ	3/6	3/18	4/4	4/11	4/26	4/30	5/8	5/10	6/22 ~ 6/27	6/27
	ゆきちから	3/17	3/21	4/8	4/14	4/26	4/30	5/9	5/11	6/23 ~ 6/28	6/28

注1) 平年値は平成25年度を除いた過去5か年分の平均値。

注2) 播種期は10月19日。

注3) 出穂期までの本年値は実測日。

注4) 成熟期の「本年の予測期」は，登熟期間を 大麦:出穂後40～45日，小麦:出穂後45～50日 として算出した。

〔作況試験生育概況〕

播種期前後の低温乾燥で，大麦，小麦とも出芽日数が10～11日と平年より長かった。出芽揃いは，シュンライでやや劣ったが他品種は良好であった。

播種期から12月前半まで低温傾向で初期の生育量が小さかったが，12月後半以降は高温傾向で経過したため，年内生育量は平年並みに回復した。

その後も高温傾向で積雪は少なく，大麦，小麦とも平年より早く幼穂形成始期に達した。

3月以降も高温傾向が継続し，大麦・小麦ともに茎立期，減数分裂期，出穂期等の生育ステージは平年に比べて早く経過した。

出穂期以降の気温も平年並み～やや高いと予報されていることから，予想される成熟期は平年並み～やや早い見込みである。